



「健口美<sup>®</sup>」レポート  
2021

---

令和3年度活動報告書

# 2021年度 活動報告書 「健口美」レポート

## ◆ ご挨拶



公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所

理事長 濱 逸夫

子どもの口腔保健普及活動は、口腔衛生への関心を高めることを目的に1913年に開催した「ライオン講演会」を原点としています。また、1921年には日本で最初となる児童専門の歯科医院「ライオン児童歯科院」を開設しました。この2つの活動が当財団の前身となっています。2010年10月からは「公益財団法人ライオン歯科衛生研究所」となり、口腔保健の普及啓発を図り、心身の健康と福祉に寄与することを目指し、さまざまな活動を展開しております。

2019年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）2019」には、口腔の健康が全身の健康にもつながるという認識のもと、生涯を通じた歯科健診、歯科医師・歯科衛生士による口腔健康管理などの歯科口腔保健の充実、入院患者等への口腔機能管理などの医科歯科連携に加え、介護、障害福祉関係機関との連携を含む歯科保健医療提供体制の構築に取り組むことが明記されています。このように、歯や口の健康は、生活の中で大切な機能を担っており、その重要性はますます増してきています。

COVID-19の猛威は令和3年度も継続し、多くの方々の意識の変化を促し、マスクの着用や手洗いの実施が習慣化しました。また、口腔環境がウイルス感染に関連するといったエビデンスについても報告がなされ、健全な口腔状態を保つことの重要性が高まっています。

このような環境下、ライオン歯科衛生研究所は、人々が健康で幸せな毎日を過ごし、満ち足りた人生を送れるよう、一生涯を通じた予防歯科の実践に繋がるオーラルケア習慣の普及啓発活動や口腔保健に関するさまざまな事業を進化、拡大することにより、サステナブルな社会の実現に取り組んでまいります。

この度、当財団の活動をより多くの方々に知っていただくことを目的に年次報告書「健口美」レポート2021を作成いたしました。ご覧いただければ幸甚に存じます。

今後とも、当財団へのご理解とご指導ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

## ◆ 「健口美」に込めた想い



（公財）ライオン歯科衛生研究所では、「食べる」、「話す」、「笑う」など、生活するうえで大切な役割を果たす口腔に対して、人々のケア意識のさらなる向上を目指し、「健康な心と身体はお口から！「健口美」」のコンセプトのもと、生活者の生活の質（QOL）の向上につながるように支援を行っています。

Oral Health（口腔の健康）、Oral Beauty（口腔の美しさ）、Communication（コミュニケーション）の三つの要素が機能し、かつ調和していることからもたらされるもの、それが「健口美」です。三つの要素を保持・増進することで、口腔だけでなく身体健康および心の健康、その結果として生活の質（QOL）の向上に繋がると私たちは考えます。「健口美」には健康なお口の「健」、良好なコミュニケーションを行う「口」、美しいお口の「美」という意味が込められています。

## ◆ 財団の概要

### 「お口の健康」を通じて、生活の質の向上に努めます

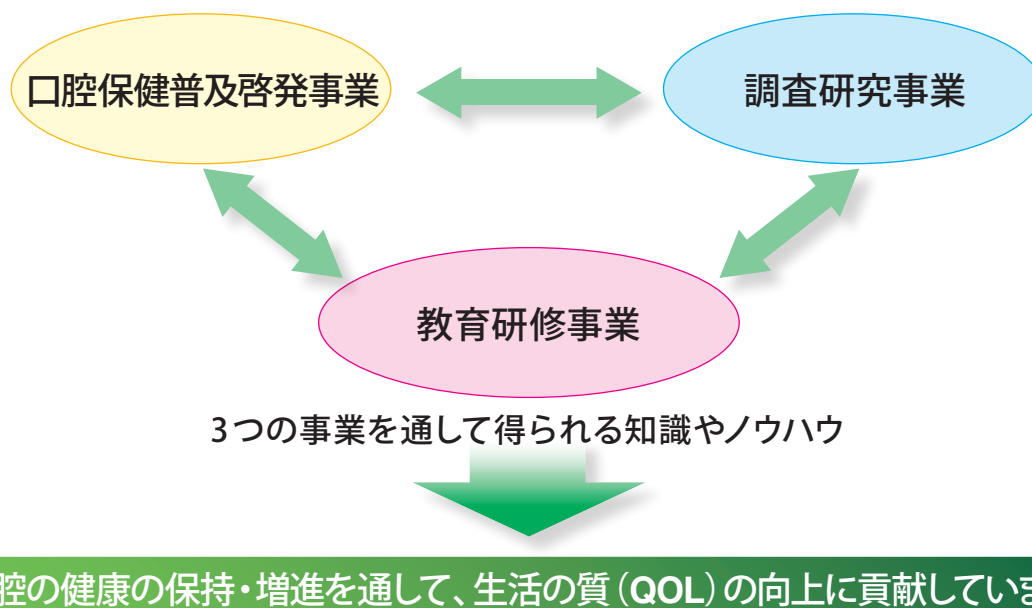
ライオンは「企業活動で得た利益を社会に還元する」という創業以来の一貫した理念のもとに、1913年から口腔保健の普及・啓発活動を行ってきました。当財団はその前身としての「ライオン児童歯科院」を1921年に開設、その後1964年に財団法人ライオン歯科衛生研究所として発足、2010年には公益財団法人ライオン歯科衛生研究所として「口腔保健普及啓発事業」、「調査研究事業」、「教育研修事業」の3つの事業を推進しています。

#### 財団の3つの公益事業

- ① **口腔保健普及啓発事業** ▶ 乳幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージにおける口腔保健のテーマに応じた普及啓発を推進しています。
- ② **調査研究事業** ▶ 口腔保健普及啓発事業や予防歯科研究活動を通して得られた研究成果を専門家や生活者に情報発信しています。
- ③ **教育研修事業** ▶ 保健指導者や歯科専門家に対する各種セミナーや講演会を実施しています。

当財団では、これら3つの事業を通して、生活者の口腔の健康を保持・増進し、生活の質の向上に貢献できるよう努力を続けています。

#### (公財)ライオン歯科衛生研究所の活動



## ◆ 社会問題に対する研究活動の取り組み

### 第94回日本産業衛生学会 産業歯科保健部会部会長表彰受賞

当財団では、成人歯科保健活動(産業歯科保健活動)の一環として、職域成人に関する研究を推進しています。

今年度は第94回日本産業衛生学会にて「単一健保被保険者における歯科医療費の関連要因：歯科健診結果とレセプトの突合分析」というテーマで口演発表を行いましたので、その研究内容をご紹介します。

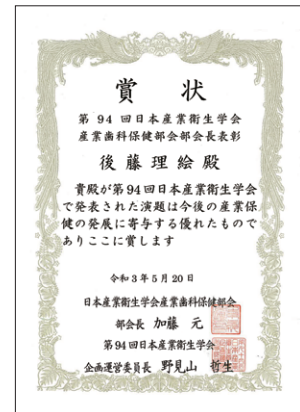
働き盛りの職域成人は特に歯周病罹患者が増加する年代であり、健康保険組合における医療費の中でも歯科医療費が多くの割合を占めており課題となっています。しかし、歯科保健に対する調査や活動を実施している健保や企業は少なく、口腔内状態等が把握できておらず有効な対策と実施の検討が難しい状況です。そこで、今回の研究は歯科医療費による口腔内状態、歯科保健習慣等の違いについて特徴の可視化を行うと共に、歯科医療費を高める要因を明らかにすることを目的としました。

その結果、歯科医療費が発生していない人はむし歯や歯周病があることが多く、歯みがき習慣も悪いため、歯科疾患が重症化する可能性が高く、将来、歯科医療費が高額になることが示唆されました。また、歯科医療費を発生させる関連要因を経年的にみると過去の歯周病罹患との関連が強くなりました。その理由として、むし歯の治療は短期間で終了することが多いですが、歯周病は、罹患すると健康な状態に戻すことが難しく長期的な治療が必要となることが考えられます。

今回の結果より健保や企業の施策として、歯周病予防の重要性を発信することと歯科医療費の発生していない者に対し、積極的に歯科医院でチェックを受けることを推進することが必要です。

本発表は第94回日本産業衛生学会の厳正な審査を受け、当財団として初めて産業歯科保健部会部会長表彰を受賞することができました。

引き続き、成人歯科保健活動(産業歯科保健活動)の一環として、研究活動を推進していきます。

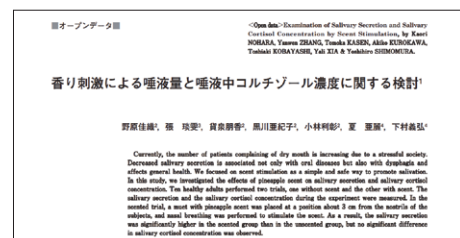


「第94回日本産業衛生学会 産業歯科保健部会部会長表彰」賞状

### 口腔機能低下症に関する研究活動の推進 ~口腔乾燥の予防・改善に向けた研究~

近年、超高齢社会の到来や社会生活におけるストレスの増大などにより、口腔乾燥を訴える患者が増加していくと予測されています。当財団では、唾液分泌を促進する簡便で安全な方法として香り刺激に着目し、千葉大学工学部と共同で香り刺激に対する唾液量と唾液中コルチゾール濃度への影響を検討しました。その結果、香り刺激により唾液量が有意に増加することが明らかになりました。本研究に関するオープンデータが、「人間工学」誌57巻3号に掲載されました。

唾液は、口腔の健康だけでなく、全身の健康において重要な働きを持ちます。今後も口腔乾燥の予防・改善に繋がる研究を継続し、人々の生活の質の向上に役立つ情報を提供したいと考えています。



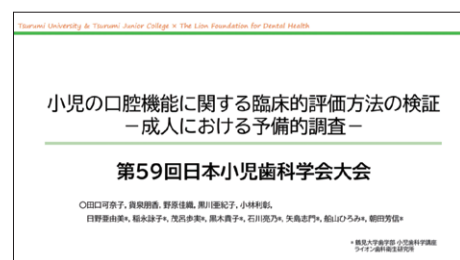
<オープンデータ>  
香り刺激による唾液量と唾液中コルチゾール濃度に関する検討  
野原佳織、張琰雯、賀泉朋香、黒川亜紀子、小林利彰、夏 夏麗、下村義弘  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jje/57/3/57\\_107/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jje/57/3/57_107/_article/-char/ja)

### 小児の口腔機能に関する臨床的評価方法の検証 ~成人における予備的調査~

近年、わが国の小児歯科学分野では、小児の口腔機能や、口腔からの成長発達への影響などが問題視され、その早期発見や予防策が検討されています。そこで、当財団では、小児の「口腔機能発達不全症」を改善・予防する事を目的とした研究を推進しており、口腔機能の中でも口呼吸に着目した検討を行っています。

第59回日本小児歯科学会大会では、質問紙調査から得られた口呼吸の徴候について、耳鼻科の診療機器である鼻腔通気時計を用いて鼻腔状態を調査し、さらに口唇閉鎖力、舌圧といった口腔機能との関連性の検証について報告を行いました。

今後も調査研究を継続し、口腔機能発達不全症の改善・予防に繋がる方法の確立を目指していきます。



「小児の口腔機能に関する臨床的評価方法の検証-成人における予備的調査-」  
田口可奈子、賀泉朋香、野原佳織、黒川亜紀子、小林利彰、日野由美、稲永詠子、茂呂歩実、黒木貴子、石川亮乃、矢島志門、船山ひろみ、朝田芳信



## ◀ 口腔保健普及啓発活動

### 第78回全国小学生歯みがき大会を開催

全国小学生歯みがき大会は、小学生の歯と口の健康意識を育むことを目的に、「歯と口の健康習慣（6月1日～10日）」に合わせて開催しています。1932年に第1回大会を開催し、これまでに参加した小学生は、延べ221万人に及びます。

第78回大会は、DVD教材を視聴する形式で実施し、全国47都道府県及び海外5か国地域の小学校から総数4498校約25万人の参加申込みがありました。

今大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により期間内で実施が困難な場合を考慮し、2021年度末まで参加いただけるなど、新しい生活様式にも対応した大会運営を行いました。また、DVD教材の映像をインターネット上で配信し、各家庭で歯みがき大会の復習や歯みがき・デンタルフロスの実習をしていただけるよう家庭との連携も強化いたしました。

今大会は、「歯と自分をみがこう。」をテーマに掲げ、明海大学学長安井利一先生の監修の下、高学年の健康課題である「歯肉」を題材としております。

歯肉炎の原因や予防方法、自身の歯肉の状態を理解し、その状態にあった歯みがきやデンタルフロスの使い方について、学べる内容となっております。

今後も、歯みがき大会を通して、多くの小学生に歯と口の健康づくりの重要性を伝えてまいります。



第78回歯みがき大会開催の様子

### コロナ禍におけるオーラルケアの重要性についてメディアセミナーにて情報発信

コロナ禍において、お口と体の健康を保つためには、毎日のオーラルケアや規則正しい生活習慣はとても重要です。

2021年3月にライオン株式会社が行った実態調査によると、コロナ禍で在宅勤務など生活環境が変化し、間食習慣が増加していました。また、歯科医院の受診を控えている等、日々の食習慣やオーラルケア習慣に影響が出ている方がいるという実態が明らかになりました。また、飛沫による感染の懸念から学校や職場、外出先などで歯みがきをすることに、不安を感じている方もいることが分かりました。そこで、2021年度は、ライオン株式会社と連携し、メディアセミナーにて、「コロナ禍における歯科情報」の発信をしました。

当財団からは、学校や職場、外出先などでの歯みがきについて、日本歯科医師会から発信されている「口を閉じて行う歯みがき」やレーザーを用いた歯みがき時の飛沫実験の映像をもとに、口を閉じる必要性や口を閉じるためのコツについてお話ししました。セミナーの内容は、新聞や雑誌、WEBなどに記事化され、多くの方へ情報発信をすることができました。

今後も、コロナ禍において、より良いオーラルケア習慣を継続していただけるよう、口腔保健啓発活動を行ってまいります。



メディアセミナー収録の様子

### 園児向け歯科保健活動の実施

母子歯科保健活動は、乳幼児のむし歯予防には保護者のむし歯予防への理解と関心を深めることが大切であるとの考えから、1959年より始まりました。現在は、園児への歯科保健指導や、幼稚園教諭、保育士等の指導者が健康教育の際に活用できる教材提供や情報発信などの支援を行っております。

2021年度は、幼稚園、保育園の合計6園を同時に接続し、約160名の園児にオンラインでの歯科保健指導を実施しました。オンラインでの実施にあたり、当日園児をサポートする現場の先生方へ事前に資料をお送りし、内容をご確認いただき、より充実した指導にすべく、意見交換を行いました。また、事前に接続状況や映像の見え方や当日の流れについても確認を行いました。

保健指導の内容は、生活習慣の異なった双子の子どもを題材にした歯みがきの大切さを楽しく理解できる紙芝居や歯ブラシの持ち方、歯のみがき方、うがいの仕方、およびおやつへの摂り方について指導を行いました。

今後も乳幼児とその保護者に歯と口の健康の大切さを伝えるために、普及啓発活動を行ってまいります。



園児向け歯科保健教材「まもるんとさぼるくん」

## ◀ 口腔保健普及啓発活動

### ホームページ「ママ、あのね。」を通じた取り組み

当財団では、妊婦と乳幼児の保護者を対象に育児や歯と口の健康に関する情報発信サイト「ママ、あのね。」を2018年6月から公開しています。当サイトでは、産婦人科医、小児科医、小児歯科医、マタニティー歯科の歯科医、小児栄養学の専門家の監修の下、妊娠中から乳幼児期にかけての育児・歯科・食・病気等の情報を月齢別に分かりやすく掲載しています。「ママ、あのね。」は年間約360万人の皆様へアクセスいただけるサイトに成長し、当財団の情報サイトの大きな柱となっています。

2021年度は、「乳歯の本数」や「子どもの歯ぎしり」、「つわりとむし歯の関係」等、妊婦や乳幼児の保護者が抱える悩みや関心に合わせた情報発信だけでなく、「赤ちゃんの歯科受診開始時期」、「早期歯科受診のメリット」および「生え変わり時期の歯科受診」など、早くから予防で歯科受診をする必要性や重要性の理解を促し、予防歯科に取り組んでいただくための情報発信を行いました。

今後も信頼性の高い情報発信はもとより、より多くの妊婦や乳幼児の保護者に歯と口の健康の大切さが伝わり、理解していただけるような情報発信を行ってまいります。



育児と乳歯の健康サイト「ママ、あのね。」

### 「Kid's 歯ッカソン」の普及啓発

「Kid's歯ッカソン」は、学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の視点を取り入れた健康教育プログラムです。「歯みがき」や「歯と口の健康」をテーマに、小学生が自ら課題を発見し、解決策となるアイデアを考え、発表する過程を通して歯と口の健康についてはもとより、それ以外のことについても自発的に考え、解決策を考える姿勢が身に付くことを目的としています。

2021年度は25校の小学校が本プログラムに参加しました。

山口県の小学校では、児童自身が興味関心のある歯と口のテーマを設定し、調べ学習や歯科専門家へのインタビューを通して正しい知識を習得、班で協力し合って意見をまとめ、課題解決のためのアイデアを考えました。

最終授業では発表会が開催され、各班の工夫を凝らしたユニークで斬新なアイデアが発表され、参加した先生や学校歯科医師からも絶賛の声が上がりました。

当日の発表会の様子は、保護者にも動画配信で視聴いただき、学校内だけではなく家庭とも連携した取組みとなりました。

今後も、児童が「歯と口の健康」に興味関心を深め、指導者が実施しやすいプログラムとなるよう改良を重ねながら、学校現場における保健指導の支援を行ってまいります。



課題解決のアイデアを発表する児童の様子

### 企業向けオンライン活動の定着

当財団の成人歯科保健活動（産業歯科保健活動）は、家族の歯と口の健康を守るためには、特に女性を中心に指導を行うことが重要との考えから、1961年に「さくらんぼ活動」の愛称で開始されました。現在は就業者を対象に歯科健診、唾液検査、歯科保健指導および講演会などを実施しています。

2021年度も、新型コロナウイルス感染予防対策により企業においてはテレワークの推進といった環境の変化が継続しています。このような状況に合わせ、2020年度から「オンラインセミナー」や自分の好きな時間にセミナーを視聴できる「オンデマンドセミナー」を開催し定着してきています。今年度は10健保および企業から依頼を受け、マスク生活での注意点や口腔内疾患、口腔機能の話、基本的なブラッシングや歯間清掃用具の使い方などを指導しました。

状況に合わせ継続して活動を行うことは、就業者の予防意識を高め、歯科疾患の減少、さらには歯科医療費の削減などにも繋がっていくことが期待できます。

これからも、歯と口の健康を通じて全身の健康を見据えた予防意識の向上および健康行動への変容を目指し、より質の高い歯科保健活動を行ってまいります。



オンデマンドセミナーの様子



## 企業従業員の健康保持増進のための歯科保健活動の推進

当財団では、ライオン株式会社、ライオン健康保険組合と共に、従業員が自ら歯と口の健康に関する予防意識を高め、健康の保持増進に結び付けられるよう、全従業員を対象に定期健康診断と合わせて歯科健診や保健指導を行っています。

活動はALPHA(All Lion Oral Health Activity)として、2002年度から始まり、今年度で20年を迎えることになりました。健診会場では、換気や消毒・滅菌の徹底、完全予約制での受診とするなど、新型コロナウイルス感染対策に十分留意しながら、お口の健康状態の確認、一人ひとりに合った保健指導を行いました。また、2019年度からは新たに飲み込みの検査(RSST)を実施し、口腔機能を維持することの大切さも伝えています。

また、テレワークの増加などの勤務形態や環境の変化を受け、いつでも手軽に視聴できる企業内の動画配信システムを用いて、プロケアや歯間清掃用具の重要性についての情報提供を行いました。

これからも、従業員のオーラルケアの意識向上と好ましい健康習慣づくりを支援できるよう活動してまいります。



感染予防対策を行った歯科指導の様子

## 保健指導者へ向けた健康教育の支援

当財団では、より多くの子どもたちが歯と口の健康の大切さを学ぶ機会が得られるよう、養護教諭、幼稚園教諭や保育士などの保健指導者へ向け、健康教育の際に活用できる教材の提供や情報発信を行っています。

2021年度は、全国延べ6ヶ所の歯科保健指導者を対象とした研修会で、新しい生活様式に適応した歯科保健指導の実践や、教材の紹介など、情報提供を行いました。

養護教諭や学校給食関係職員を対象とした研修会では、コロナ禍における学校での歯みがき指導の施策のひとつとして、口を閉じて歯みがきを行う方法を紹介している動画をはじめとするコンテンツの紹介や、オンラインを活用した授業の実践報告、マスクを着用したまま実施可能な「かみかみゴクゴク体操」の実習を行いました。また、小グループに分かれ、各学校のコロナ禍における学校歯科保健活動の現状や課題、指導のポイントを共有することができました。

これからも、保健指導者への情報提供や教材提供を通じて、子どもたちの歯と口の健康づくりに貢献できるよう活動してまいります。



オンラインでの健康教育の情報提供の様子

## 「かみかみゴクゴク体操」を通じた口腔機能普及啓発活動の推進

当財団では、2019年に制作した「かみかみゴクゴク体操」を用いて、幅広い年代の方に口腔機能の重要性を啓発する活動を推進しています。

この「かみかみゴクゴク体操」は、「かむ力」や「飲み込む力」に焦点を当て、身体のストレッチと口元の体操を短時間でできるように組み合わせた体操です。制作にあたっては、耳鼻咽喉科専門医の浦長瀬昌宏先生、歯学博士の照山裕子先生にご監修を頂き、医科、歯科両面からの意見を基に制作しました。

2021年度は、全国のウォーキングイベントを中心に「かみかみゴクゴク体操」の啓発活動を行いました。イベントは感染対策に十分に配慮し、参加人数を縮小したりリアルウォークや、アプリを使用して自分の好きなタイミングでウォーキングを行うアプリウォークを併用して実施され、パンフレット配布などを通じて約9500名の方に啓発を実施しました。

口元の機能は気が付かないうちに衰えやすい部分です。衰えに気が付いてから対処するのではなく、早期から予防を行うことで口腔機能を維持向上できるよう、今後も継続して「かみかみゴクゴク体操」の普及啓発を推進してまいります。



「かみかみゴクゴク体操」冊子

## ◀ 口腔保健普及啓発活動

### 卓球強化選手に向けた歯科保健活動

日本卓球協会の小学生の強化選手を対象に、オーラルケアを定着させ主体的な健康行動に繋げることを目的に、歯科講話を行っております。2021年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、リモートで計4回、約100名の強化選手に実施しました。

ジュニアアスリートとして、高いパフォーマンスを発揮するために健康づくりは重要です。その一環として、自身の口腔内の状況を理解し、自分に合った歯みがき方法を身につけること、自分に合ったオーラルケア製品を選ぶことおよび毎日のオーラルケアとスポーツの関係性や重要性について講話を行いました。

小学生期は他律から自立への移行期であり、特にジュニアアスリートは遠征などで親元を離れる機会も多くあります。良好なオーラルケア習慣の定着が規則正しい生活習慣へと繋がることによって、主体的に健康づくりができる力を育んでもらいたいと考えています。

今後も口腔保健啓発活動を通じて歯・口腔の健康にとどまらず全身の健康を見据え、より高いパフォーマンスの発揮や夢の実現に向けて支援してまいります。



オンラインで歯科保健指導を受ける卓球ジュニアアスリート

### 特別支援学校における歯と口の健康を支援する取り組み

当財団では、障がいの有無に関わらず「歯と口の健康」の支援を行うため、合理的配慮<sup>(※1)</sup>に心がけた歯科保健活動を行っております。

2021年度は東海地方を中心に特別支援学校3校に対して「歯と口の健康教室」をオンラインで実施しました。

具体的な活動においては、聴覚障がいには手話を用いて、知的障がいには文字とイラストを組み合わせやすく資料作成を、障がいや介助の度合いにより作業スピードが異なる肢体不自由には流れや説明の順番に配慮して授業を進めています。その他、漢字には振り仮名(ルビ)をつける、授業後に家庭との連携を図れるように考慮した資料を作成するなど、個々の障がいに配慮した授業を心がけています。

どの活動においても、特別支援学校の先生方や障がい者支援団体の方々と連携しながら実施しました。今後も、障がい者の方々に対する口腔保健普及啓発活動を進めてまいります。



オンラインによる特別支援学校での歯科保健指導の様子

※1「合理的配慮」とは、障がいのある方が日常生活や社会生活で受けるさまざまな制限をもたらす原因となる社会的障壁を取り除くために、障がいのある方に対し、個別の条項に応じて行われる配慮をいいます。

### ライオン健康セミナー

2021年4月18日、2021ライオン健康セミナーを歯科医療従事者に向けて、オンライン配信にて開催しました。今回は「人生100年時代に向けた歯科医療をめざして」をテーマに生涯にわたる口腔の健康を通じた全身の健康の保持増進や生活の質(QOL)の向上に関する最新情報を各分野でご活躍の4名の先生からご講演いただきました。延べ1424名と多くの方々に視聴いただきました。(オンデマンド配信含む)

基調講演の西沢邦浩先生からは、歯科と全身疾患の関係性や専門的口腔ケアとセルフケアの重要性などを解説いただきました。

尾崎哲則先生からは、口腔機能の維持には継続的な管理や指導の重要性からウェブを通じた日常の健康支援も、歯科の新たな役割になると解説いただきました。

石原裕一先生は歯周病罹患者の現状と、認知症をはじめとした全身疾患との関連、高齢者の歯周病予防・治療を推進するための指導法を解説いただきました。

池上由美子先生からは、武漢からの新型コロナウイルス感染者を受け入れた病院での経験を基に、ウイルスに対する人・環境・システムの管理の方法を解説いただきました。

講演後には、講師の先生方によるパネルディスカッションを行い、視聴者からは多数の質問が寄せられ、活発な質疑応答が行われました。



講師4名によるパネルディスカッションの様子

基調講演：西沢邦浩先生(日経BP総研メディカル・ヘルスラボ客員研究員)▶「人生100年時代」の健康のカギを握る歯科への期待

講演 1：尾崎哲則先生(日本大学歯学部教授)▶歯科医療の今と今後

講演 2：石原裕一先生(ライオン歯科衛生研究所・日本歯周病学会専門医・指導医)▶「生涯自分の歯で過ごすための歯周病予防・治療」

講演 3：池上由美子先生(歯科衛生士、がん感染症センター都立駒込病院)▶新しい生活様式、withコロナの中での臨床現場における歯科衛生士の役割

## ◆ 学術発表

当財団では大学や研究機関と連携して口腔保健に関する調査研究を推進し、健康の増進に役立つ最新情報の発信を行っています。  
2021年度は2件の論文、3件の学会発表、3件の外部助成を受けた研究活動を行いました。

アンダーライン:財団所員

### ◆ 誌上掲載

#### ① 原著論文

- ① Yoji Yamazaki, Toyoko Morita, Kumiko Nakai, Yumi Konishi, Ayae Goto, Takashi Yamamoto, Misae Seto, Manami Ozaki, Hideki Tanaka, Masao Maeno, Takayuki Kawato  
歯科保健の介入による心血管代謝リスク要因への影響 — J. Human Hypertension

#### ② その他

- ① 野原佳織、張琰雯、貨泉朋香、黒川亜紀子、小林利彰、夏亜麗、下村義弘  
香り刺激による唾液量と唾液中コルチゾール濃度に関する検討—「人間工学」誌57巻3号2021年

### ◆ 学会発表

- ① 田口可奈子、貨泉朋香、野原佳織、黒川亜紀子、小林利彰、日野亜由美、稲永詠子、茂呂歩実、黒木貴子、石川亮乃、矢島志門、船山ひろみ、朝田芳信  
「小児の口腔機能に関する臨床的評価方法の検証—成人における予備的調査—」第59回日本小児歯科学会大会
- ② Kazuma Yama, Y Aita, T Inokuchi, Y Ichiba, R Jo, T Okuda, K Tsutsumi, S Morishima, Y Kakizawa  
Trajectories of highly prevalent oral bacteria during the first 36 months of life using next-generation sequencer 第63回日本歯科基礎医学会
- ③ 後藤理絵、福田吉治  
単一健保被保険者における歯科医療費の関連要因: 歯科健診結果とレセプトの突合分析 第94回日本産業衛生学会

### ◆ 2021年度の外部助成活用事業

- ① 川戸貴行、森田十誉子、尾崎愛美、中井久美子、山本高司、田中秀樹: 歯周病が脂肪肝の発症に及ぼす影響の疫学・細胞生物学研究による解明、  
科学研究費 基盤研究(C) 令和2年～令和4年 日本大学歯学部
- ② 吉成伸夫、宇田川信之、田口明、石原裕一、尾崎友輝: 慢性炎症が基盤病態の歯周病、糖尿病、動脈硬化症に対する抗老化細胞療法の創出  
科学研究費 基盤研究(C) 令和3年～令和5年 松本歯科大学
- ③ 石原裕一、小出雅則、吉成伸夫、中本哲自、田口明: 血清中IL-1受容体補助タンパク濃度を用いた新規歯周病マーカーの開発  
科学研究費 基盤研究(C) 令和元年～令和3年 松本歯科大学、朝日大学



## ◆ 評議員・理事・監事

令和4年3月31日現在

### ◆ 評議員

評議員16名

	氏名	役職名	
評議員	荒川 浩久	神奈川県立歯科大学 歯学部 特任教授	歯学博士
評議員	糸田 昌隆	大阪歯科大学 医療保健学部 教授	歯学博士
評議員	浦尾 康弘	ライオン株式会社	
評議員	小和田 みどり	ライオン株式会社	
評議員	川口 陽子	東京医科歯科大学 名誉教授	歯学博士
評議員	曾我 晶子	ライオン株式会社	
評議員	川本 強	公益社団法人日本学校歯科医会 会長	歯学博士
評議員	菊谷 武	日本歯科大学 教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック院長	博士(歯学)
評議員	佐藤 秀一	日本大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評議員	嶋崎 義浩	愛知学院大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評議員	新開 省二	女子栄養大学 栄養学部 教授	医学博士
評議員	花田 信弘	鶴見大学 名誉教授	歯学博士
評議員	福田 洋	順天堂大学 大学院医学研究科 特任教授	博士(医学)
評議員	満武 純	ライオン歯科材株式会社 代表取締役社長	
評議員	三宅 達郎	大阪歯科大学 歯学部 教授	歯学博士
評議員	柳沢 幸江	和洋女子大学大学院 総合生活研究科 研究科長	博士(栄養学)

### ◆ 理 事

理事12名

役職	氏名	役職名	
代表理事	濱 逸夫	ライオン株式会社 代表取締役 会長 / 公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 理事長	工学博士
代表理事	内山 章	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 副理事長	博士(歯学)
業務執行理事	池永 和広	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所	
理 事	朝田 芳信	鶴見大学 歯学部 教授	歯学博士
理 事	天野 敦雄	大阪大学大学院 歯学研究科 教授	歯学博士
理 事	川添 堯彬	大阪歯科大学 理事長 学長	歯学博士
理 事	田上 順次	東京医科歯科大学 名誉教授・特命教授	歯学博士
理 事	西沢 邦浩	日経BP 総合研究所 客員研究員	
理 事	野村 正子	日本歯科大学 東京短期大学 准教授	
理 事	服部 正巳	愛知学院大学 名誉教授	歯学博士
理 事	安井 利一	明海大学 学長	歯学博士
理 事	山本 秀樹	公益社団法人 日本歯科医師会 常務理事	歯学博士

### ◆ 監 事

監事3名

役職	氏名	役職名	
監 事	上林 博	上林法律事務所 辯護士	
監 事	木村 直人	木村直人税理士事務所 税理士	
監 事	鎌尾 義明	ライオン株式会社 監査役	

## ◆ 公益財団法人ライオン歯科衛生研究所のあゆみ

- 1913年** 口腔衛生啓発活動開始(写真①)
- 1921年** 「ライオン児童歯科院」開設(写真②)
- 1932年** 「第1回学童歯磨教練体育大会」(現:全国小学生歯みがき大会)開催(写真③)
- 1952年** 口腔衛生普及車「ライオン・ヘルスカー1号」完成(写真④)
- 1958年** 母子歯科保健活動(たんぼぼ運動)開始
- 1961年** 就業者への歯科保健活動(さくらんぼ運動)開始
- 1964年** 「財団法人ライオン歯科衛生研究所」設立  
「ライオンファミリー歯科診療所」開設(東京・京王デパート)
- 1965年** 学童歯みがき大会をオリンピック競技場(国立競技場)で開催(写真⑤)
- 1984年** 台湾の園・小学校で歯科保健活動実施(写真⑥)
- 1992年** ライオン New Year セミナー(現:ライオン健康セミナー)開始
- 1998年** マレーシアでの口腔保健活動実施
- 2004年** 設立40周年記念として「歯周病と全身の健康を考える」を発行
- 2005年** 視覚障がい者向け歯の健康冊子 「さわってわかる歯みがきの本」監修
- 2007年** ホームページ開設、季刊誌「お口の時間」発行
- 2009年** 学童歯みがき大会のインターネット配信をスタート
- 2010年** 公益財団法人として内閣府より移行認定
- 2014年** 目黒駅前歯科診療所を東京デンタルクリニックとして五反田に移転・開院(2021年3月閉院)  
「口腔機能への気づきと支援 ーライフステージごとの機能を守り育てるー」を発刊
- 2015年** 「健康をみがく笑顔をふやす」シリーズ全4巻発行
- 2016年** LDH国際シンポジウム[健康寿命の延伸に向けた歯科医療の使命と可能性]を開催(写真⑦)
- 2017年** 「歯みがき100年物語」発行(写真⑧)  
全国小学生歯みがき大会のDVD方式での開催をスタート
- 2021年** 「ライオン健康セミナー」Webによるライブ配信で開催  
第78回全国小学生歯みがき大会を開催。約25万人がDVDで参加(写真⑨)



①



②



③



④



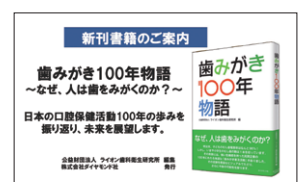
⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

公益財団法人 **ライオン** 歯科衛生研究所  
<https://www.lion-dent-health.or.jp/>

**東京本部**

〒130-8644  
東京都墨田区本所1-3-7  
TEL.03-3626-6490  
FAX.03-3626-4182

**名古屋事業所**

〒460-0003  
名古屋市中区錦2-3-4  
名古屋錦フロントタワー10階  
TEL.052-220-6780

**大阪事業所**

〒541-0057  
大阪市中央区北久宝寺町3-6-1  
本町南ガーデンシティ5階  
TEL.06-7739-8422

